

交野鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務
報告書

令和2年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1.	調査の目的.....	1
2.	調査区域及び調査対象.....	1
3.	調査内容.....	2
4.	調査地の概要及び環境.....	2
5.	調査方法.....	3
6.	調査範囲・調査地点.....	4
7.	調査結果.....	5
7-1	現地調査結果.....	5
7-2	文献・聞き取り調査結果.....	14
8.	まとめ.....	21
9.	参考文献.....	25

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、交野鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

交野鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。交野鳥獣保護区の範囲は図 2-1 に示す。

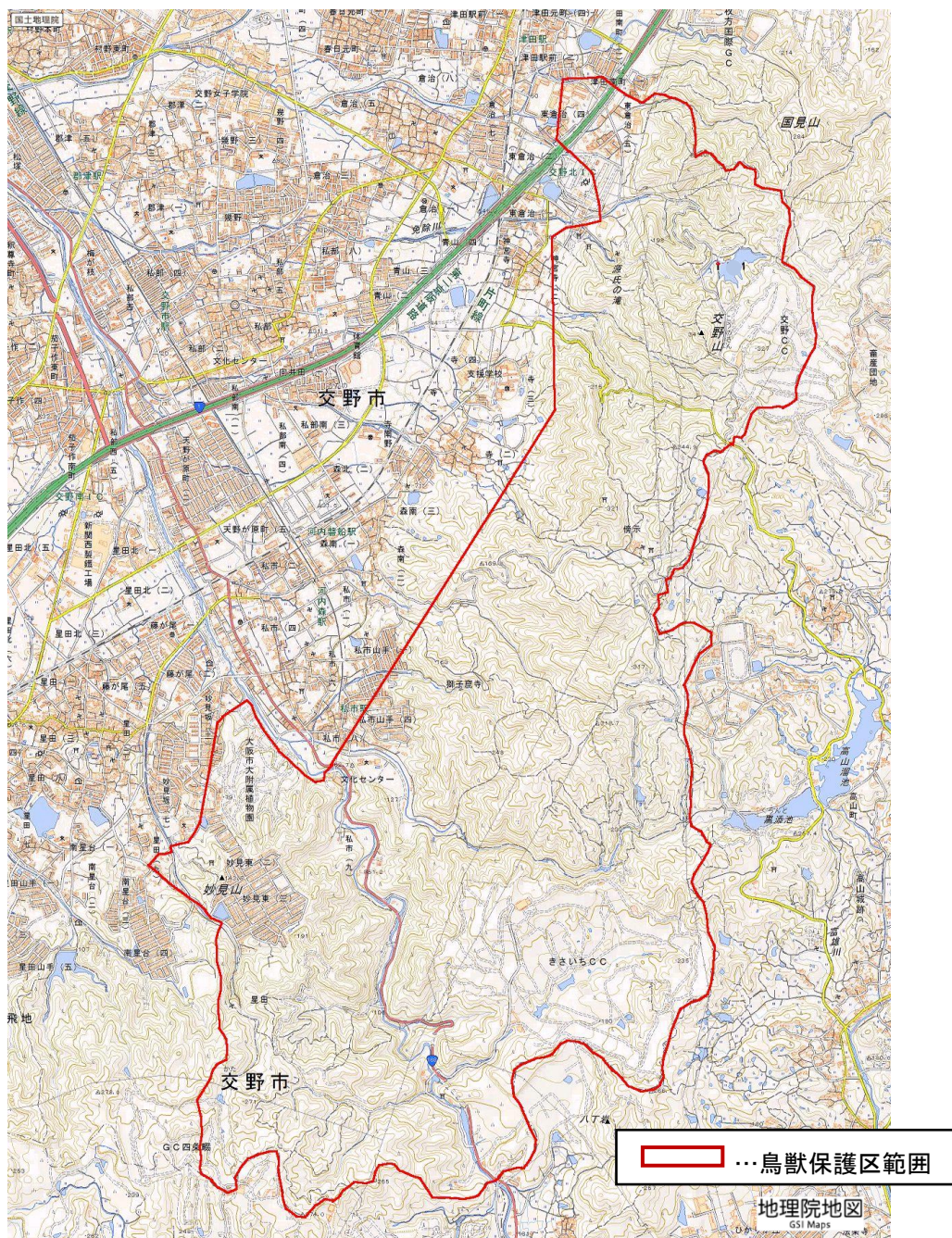


図 2-1 交野鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（施設利用者数など）

4. 調査地の概要及び環境

交野鳥獣保護区は、奈良県と境を接する大阪府交野市の東半部を占める府下で 5 番目に大きな保護区であり、面積は約 1,030ha に及ぶ。生駒山系の北部に位置し、標高 345m の旗振山、標高 344m の交野山を有する。保護区内の大半は山林で、標高は 50m～345m、北側は枚方市、南側は四条畷市とそれぞれ接する。東側の奈良県と接した地域は、浅い谷が複雑に入り組んだ丘陵地となっており、谷部には棚田が開かれているが、北部と南部はゴルフ場として整備されている。一方、西側の斜面は傾斜が極めて急で、天野川とその支流の免除川、尺治川が流下している。急峻な地形から、古来より修験道の場となっており、また岩船地峡、源氏の滝、月の輪の滝といった景勝地は人々から親しまれている。

交野鳥獣保護区が位置する生駒山地は暖温帯に属しており、本来は照葉樹林に覆われている地域である。しかし古くから人間活動の影響を受けており、本来の植生は獅子窟寺周辺など、樹木の伐採が規制された社寺林にしか残っていない。山林の大半を占めるのは二次林で、かつてはアカマツ・モチツツジ群集が広く覆っていたが、近年の松枯れ被害により大部分がアカマツの出現しないアベマキ・コナラ群集に置き換わったと言われている。交野鳥獣保護区では、南部のくろんど園地周辺に、ややまとまったアカマツ林が残っている。一方、土壌条件が悪く林業に向かないとされる生駒山系にあって、北西部の交野山西側の急斜面には、まとまってスギ・ヒノキ植林が分布している。この他、中部丘陵地の耕作地周辺や、山麓部などには、竹林が点在している。

当該地区の西部を除く範囲は金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、自然環境の保全上も重要な地域となっている。また、北東側に枚方鳥獣保護区、南側に四条畷鳥獣保護区が連続し、北側と西側は枚方、交野の各特定猟具使用禁止区域と接している。

交野鳥獣保護区の中南部には府民の森くろんど園地、ほしだ園地が整備されており、平成 30 年度に前者は約 8 万人、後者は約 85 万人の利用者が訪れている。北部には交野市いきものふれあいの里が開設され、自然保護活動、自然体験学習の拠点として利用されている。また、南西部には大阪市立大学理学部附属植物園が整備され、樹木を中心とした見本園となっているほか、一般市民への普及啓発活動も行っている。

くろんど園地とほしだ園地では、月交代で日本野鳥の会大阪支部の定例探鳥会が開催され、平均して毎回 20 名ほどの参加者がある。また、交野野鳥の会が、交野いきものふれあいの里を中心に、広く市域で活動を続けている。

参考：「交野市史 自然編Ⅰ」（交野市，1986 年 11 月）

「生駒山―歴史・文化・自然にふれる」（大阪府みどり公社編，2010 年 5 月）

「『大阪府民の森』各園地等の現状について」

（大阪府，2019 年。 <http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/217/00329312/setsumeishiryuu.pdf>）

5. 調査方法

調査は、現地調査および表 5-1 に示す文献による文献調査、哺乳類については保護区内に位置する施設への聞き取り調査を実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、北部の農耕地から交野山の稜線を越えるルート 1 (2.68km)、南部の私市駅からくろんど園地に至る谷筋のルート 2 (1.77km) の 2 箇所を設定した。定点観察では、調査定点に 30 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。調査地点は交野市いきものの里の白旗池堰堤に設定した。各ルート及び定点の位置は図 6-1 に示すとおりである。任意観察では、保護区内の農耕地、市街地、ため池など局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を意識し、保護区内の要所を任意に歩いて確認された鳥類を記録した。調査時期は、繁殖期及び越冬期とした。

確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 に示すとおりである。

表 5-1 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	40 周年記念版 交野の野鳥.xlsx	交野野鳥の会 (電子データ)
文献 2	くろんど・ほしだ定例探鳥会出現鳥記録	2010 年～2020 年・野鳥の会大阪支部
文献 3	大阪府鳥類目録 2016	2016 年・野鳥の会大阪支部

表 5-2 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)
環境省レッドリスト 2020 (環境省 R L)
大阪府レッドリスト 2014 (大阪府 R L)

6. 調査範囲・調査地点

調査範囲は交野鳥獣保護区全域とした。ラインセンサスに用いたルート (R1、R2) 及び定点観察に用いた地点 (P1) は、図 6-1 に示すとおりである。

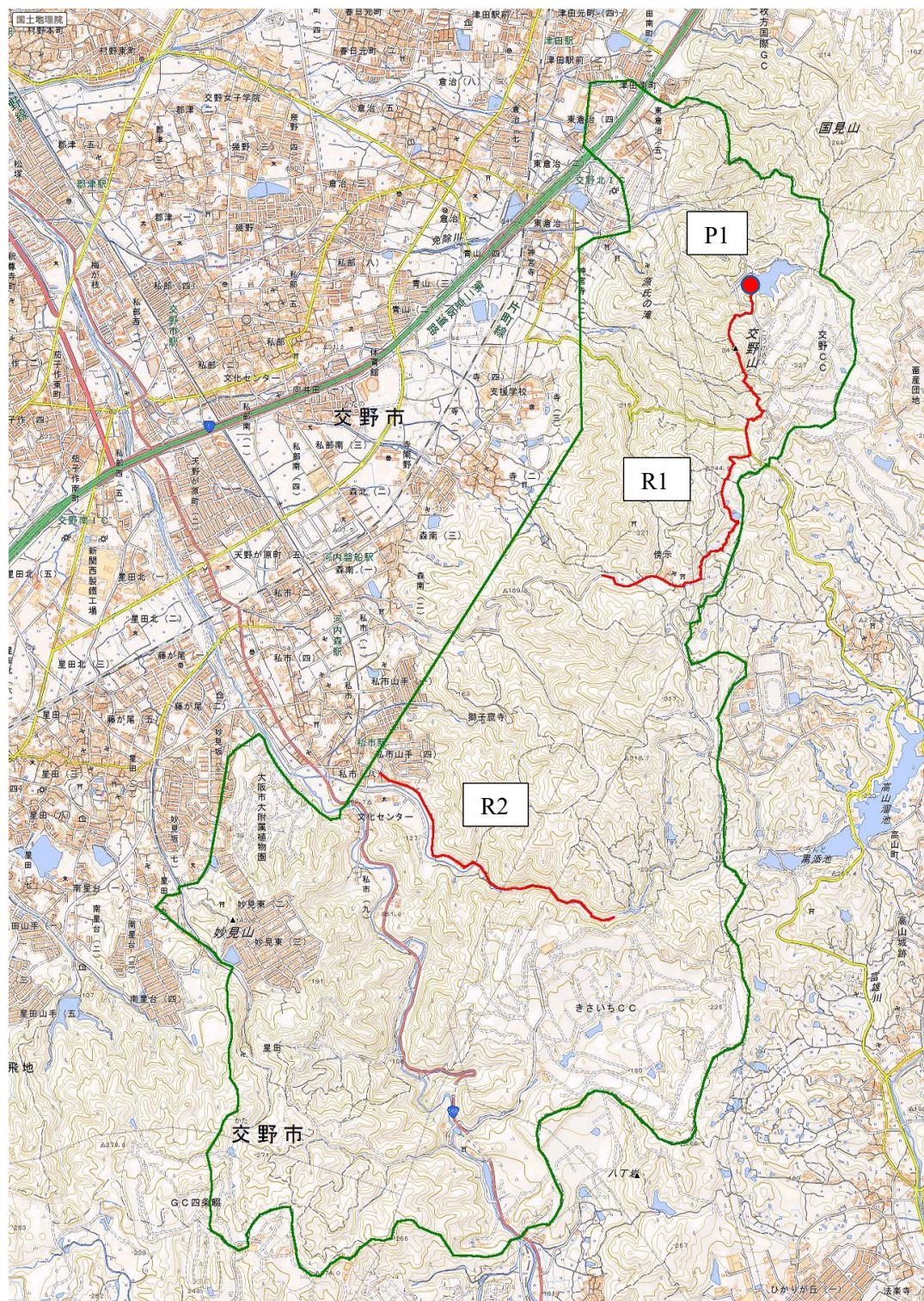


図 6-1 調査地点

7. 調査結果

1-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和 2 年 6 月 21 日	晴れ	R1	7:10~9:01
			R2	11:56~12:47
			P1	9:05~9:35
			任意	12:48~14:35
越冬期	令和 2 年 12 月 27 日	晴れ	R1	8:47~10:50
			R2	7:07~8:13
			P1	9:50~10:20
			任意	7:10~11:30

② 鳥類確認種

現地調査の結果、11目27科50種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表7-2に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥25種、夏鳥12種、冬鳥36種であり、留鳥50%、夏鳥12%、冬鳥36%と、一年を通してみられる留鳥が半数を占めた(図7-1)。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	25種	50%
夏鳥	6種	12%
冬鳥	18種	36%
外来種	1種	2%

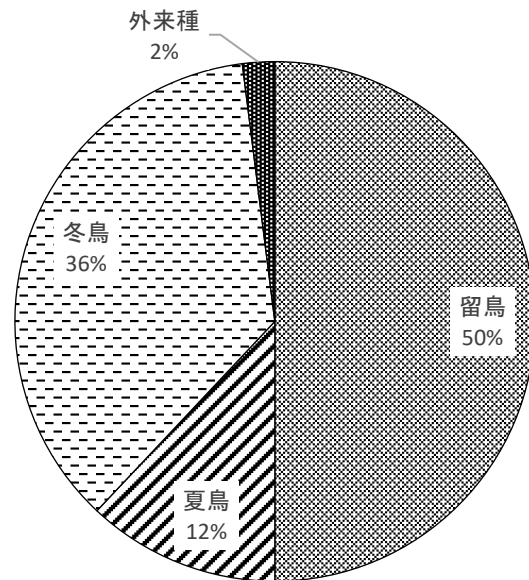


図 7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	越冬期	渡り区分		
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		○	冬鳥		
2			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>		○	冬鳥		
3			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>		○	冬鳥		
4			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	留鳥		
5			コガモ	<i>Anas crecca</i>		○	冬鳥		
6			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>		○	冬鳥		
7			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>		○	冬鳥		
8	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		○	留鳥		
9	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>		○	留鳥		
10			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		○	留鳥		
11	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>		○	留鳥		
12	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		○	留鳥		
13	ツル	クイナ	オオバン	<i>Fulica atra</i>		○	冬鳥		
14	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○		夏鳥		
15	タカ	タカ	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		○	冬鳥		
16			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		○	冬鳥		
17	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	留鳥		
18	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	留鳥		
19			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	留鳥		
20			スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		○	留鳥
21	スズメ	カラス	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	留鳥		
22		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	留鳥		
23			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	留鳥		
24		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○		夏鳥		
25		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	留鳥		
26		ウグイス	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	留鳥	
27				ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○		夏鳥	
28		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	留鳥		
29		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○		夏鳥		
30		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	留鳥		
31		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		○	留鳥		
32		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>		○	留鳥		
33		ヒタキ	ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>		○	冬鳥	
34				シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		○	冬鳥	
35				ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		○	冬鳥	
36				ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>		○	冬鳥	
37				ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>		○	冬鳥	
38				イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>		○	留鳥	
39				キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○		夏鳥	
40				オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○		夏鳥	
41				スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	留鳥
42				セキレイ	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		○
43		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>				○	留鳥	
44		ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>				○	冬鳥	
45		アトリ	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		○	冬鳥	
46				カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○		留鳥	
47				イカル	<i>Eophona personata</i>		○	留鳥	
48		ホオジロ	ホオジロ	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>		○	冬鳥	
49				クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>		○	冬鳥	
50		(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	○	○	外来種	
合計		11 目	27 科	50 種		20 種	43 種	—	

・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年,日本鳥学会)に従った。

・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された 20 種については、いずれも調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 15 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク B 及び A）、調査範囲内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-3 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じた。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 1 種	21	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちビナを見た	キビタキ
B (繁殖の可能性が高い) 15 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	ホトトギス、アオゲラ、ツバメ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、キビタキ、オオルリ、カワラヒロ、ソウシチヨウ
	39	かなり移動可能と思われる巣立ちビナを見た	ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、スズメ
C (繁殖の可能性あり) 5 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	カルガモ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ 鳥類の生息個体数

ラインセンサスおよび定点観察による調査の結果、9目25科44種632羽の鳥類を確認した。各ルートにおける調査回毎の個体数を表7-4に示す。R1では32種331羽、R2では22種178羽、P1では26種123羽を確認した。ラインセンサスでは繁殖期、越冬期を通じて、山地稜線と農耕地や溜め池などを經由するR1で種数・個体数とも多くなった。谷筋から市街地に至るR2ではモズ、ツグミ、カワラヒワといった農耕地を好む鳥が見られなかった一方、ムクドリ、イソヒヨドリといった人家付近に生息する種が特徴的に確認された。白旗池に面したP1ではカモ類やカイツブリなどの水鳥が確認された。

表 7-4 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	R1			R2			P1			総計		
				繁殖期	越冬期	計	繁殖期	越冬期	計	繁殖期	越冬期	計			
1	カモ	カモ	オシドリ							13	13	13			
2			ヨシガモ							3	3	3			
3			マガモ							18	18	18			
4			カルガモ	1		1							1		
5			コガモ			9	9						9		
6			ホシハジロ								1	1	1		
7			キンクロハジロ								4	4	4		
8	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ							2	2	2			
9	ハト	ハト	キジバト					2	2			2			
10	ツル	クイナ	オオバン							1	1	1			
11	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	3		3				1	1	4			
12	タカ	タカ	ハイタカ		1	1						1			
13	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ							1	1	1			
14	キツツキ	キツツキ	コゲラ	7	7	14	2	4	6	1		1	21		
15			アオゲラ					1	1	1	1	1	2	3	
16	スズメ	モズ	モズ		2	2							2		
17		カラス	ハシブトガラス	6	3	9	3	3	6	2	1	3	18		
18		シジュウカラ	ヤマガラ	11	5	16		1	1	3	3	6	23		
19			シジュウカラ	9	5	14	4	7	11	8		8	33		
20		ツバメ	ツバメ	12		12	1		1	25		25	38		
21		ヒヨドリ	ヒヨドリ	18	42	60	13	26	39	5	4	9	108		
22		ウグイス	ウグイス	8	6	14	2	2	4	3		3	21		
23			ヤブサメ	4		4				1		1	5		
24		エナガ	エナガ		21	21							21		
25		ムシクイ	センダイムシクイ	3		3	1		1				4		
26		メジロ	メジロ	48	38	86	5	41	46	1	6	7	139		
27		ミソサザイ	ミソサザイ		1	1		1	1				2		
28		ムクドリ	ムクドリ					2	2				2		
29		ヒタキ	シロハラ		10	10		7	7		3	3	20		
30			ツグミ		1	1							1		
31			ルリビタキ		2	2		2	2				4		
32			ジョウビタキ		1	1		1	1				2		
33			イソヒヨドリ					1	1				1		
34			キビタキ	11		11	3		3	2		2	16		
35			オオルリ	1		1	3		3	1		1	5		
36			スズメ	3		3	5	3	8	3		3	14		
37			セキレイ	キセキレイ		1	1					1	1	2	
38				ビンズイ		1	1							1	
39		アトリ	アトリ		1	1							1		
40			カワラヒワ	6		6							6		
41			イカル		1	1					1	1	2		
42		ホオジロ	アオジ		5	5		20	20				25		
43			クロジ		3	3							3		
44		(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	10	4	14		12	12	3		3	29	
9目 25科			44種	種数	17	23	32	11	18	22	16	15	26	44	
				個体数	161	170	331	42	136	178	61	62	123	632	

⑤ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルートの両側 25m 内で確認された鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルートを合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を表 7-5 に示す。

生息密度はメジロ、ヒヨドリでは繁殖期、越冬期とも高く、越冬期にはエナガ、アオジ、ソウシチョウでも高くなった。また、全種を通じて繁殖期より越冬期に鳥類の生息密度は高く、特に標高が低い R2 では、越冬期の生息密度の増加が顕著であった。

表 7-5 個体数密度

(羽/1ha)

種名	繁殖期			越冬期		
	ルート1	ルート2	全体	ルート1	ルート2	全体
カルガモ	0.07		0.04			
コガモ				0.67		0.40
キジバト					0.23	0.09
ホトトギス	0.22		0.13			
ハイタカ				0.07		0.04
コゲラ	0.52	0.23	0.40	0.52	0.45	0.49
アオゲラ					0.11	0.04
モズ				0.15		0.09
ハシブトガラス	0.45	0.34	0.40	0.22	0.34	0.27
ヤマガラ	0.82		0.49	0.37	0.11	0.27
シジュウカラ	0.67	0.45	0.58	0.37	0.79	0.54
ツバメ	0.90	0.11	0.58			
ヒヨドリ	1.34	1.47	1.39	3.13	2.94	3.06
ウグイス	0.60	0.23	0.45	0.45	0.23	0.36
ヤブサメ	0.30		0.18			
エナガ				1.57		0.94
センダイムシクイ	0.22	0.11	0.18			
メジロ	3.58	0.56	2.38	2.84	4.63	3.55
ミソサザイ				0.07	0.11	0.09
ムクドリ					0.23	0.09
シロハラ				0.75	0.79	0.76
ツグミ				0.07		0.04
ルリビタキ				0.15	0.23	0.18
ジョウビタキ				0.07	0.11	0.09
イソヒヨドリ					0.11	0.04
キビタキ	0.82	0.34	0.63			
オオルリ	0.07	0.34	0.18			
スズメ	0.22	0.56	0.36		0.34	0.13
キセキレイ				0.07		0.04
ビンズイ				0.07		0.04
アトリ				0.07		0.04
カワラヒワ	0.45		0.27			
イカル				0.07		0.04
アオジ				0.37	2.26	1.12
クロジ				0.22		0.13
ソウシチョウ	0.75		0.45	0.30	1.36	0.72
鳥類全種	12.01	4.75	9.12	12.69	15.37	13.75

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目4科5種であった。確認された重要種を表7-6、確認位置を図7-2に示す。

今回の調査で、環境省レッドリスト記載種が2種、大阪府レッドリスト記載種が3種確認された。種の保存法記載種は確認されなかった。レッドリスト記載種5種のうち、繁殖期に確認されたものはセンダイムシクイの1種であった。

表 7-6 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	環境省 RL	大阪府 RL
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	DD	
2	タカ	タカ	<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	NT	
3			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		NT
4	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		NT
5		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ		NT
計	3目	4科	5種		2種	3種

VU：絶滅危惧Ⅱ類
 NT：準絶滅危惧種
 DD：情報不足

絶滅の危険が増大している種
 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 評価するだけの情報が不足している種

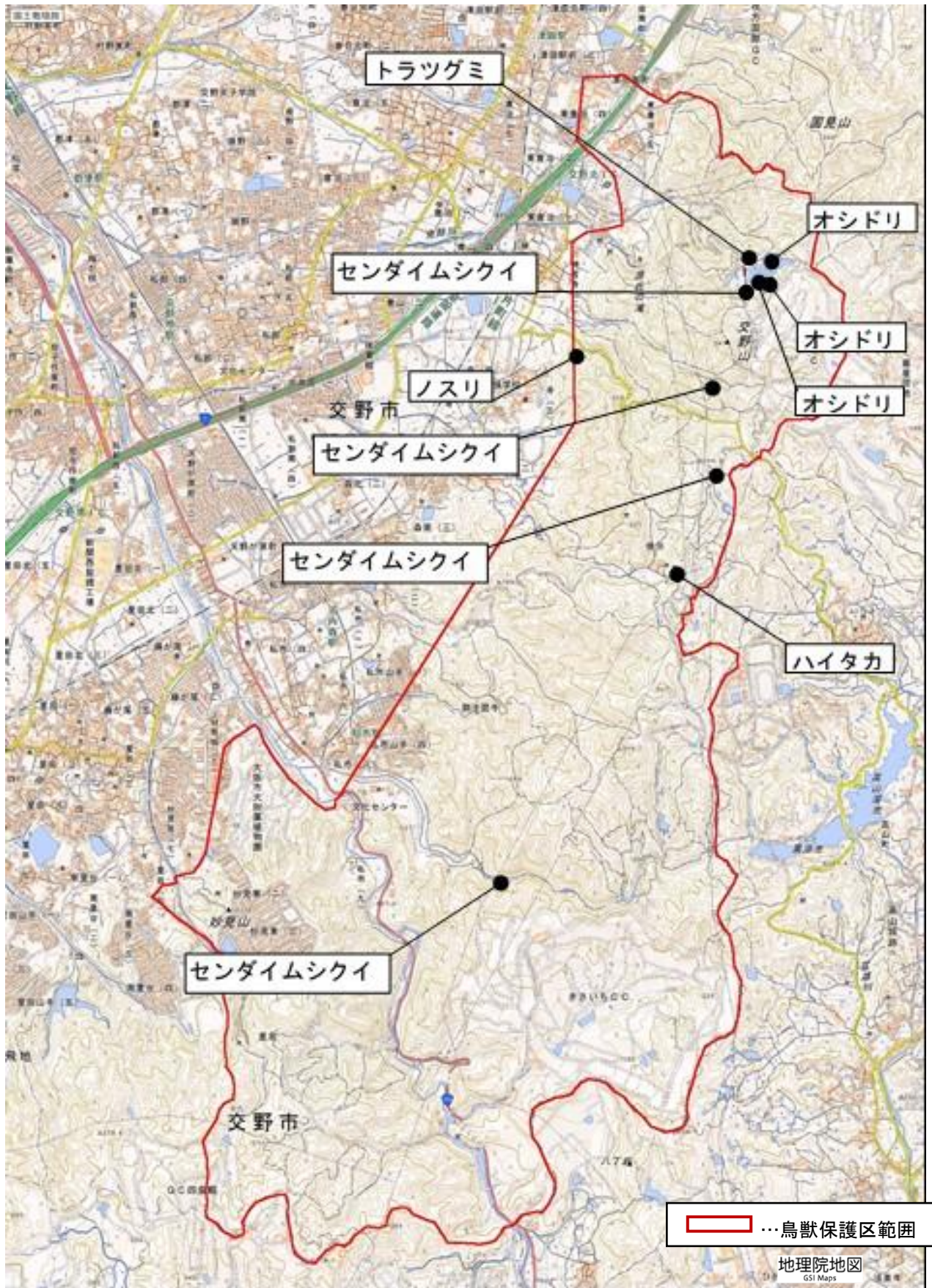


図 7-2 重要種確認位置図

⑦ 哺乳類確認種

現地調査の結果、1目1科1種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-12に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。近年、各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカの生息痕跡は確認されなかった。シカによる食害がないため、樹林下のササや低木は大阪の他地域より多く繁茂していた。

表 7-7 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名
1	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
合計	1目	1科		1種

⑧ 哺乳類重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種はみられなかった。

7-2 文献・聞き取り調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献の記載概況を表 7-8 に示す。また、主に哺乳類の生息状況について聞き取り調査を行った施設と担当者を表 7-9 に示す。

表 7-8 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	40 周年記念版 交野の野鳥.xlsx	交野野鳥の会による、交野市域の鳥類の記録総覧。平野部でしか記録がない種を除外した。
文献 2	くろんど・ほしだ定例探鳥会出現鳥記録（野鳥の会大阪支部）	大阪支部にて毎月行われている探鳥会のくろんど園地及びほしだ園地における 2010 年～2020 年の観察鳥類。
文献 3	大阪府鳥類目録 2016（野鳥の会大阪支部）	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から、くろんど園地、ほしだ園地において確認された種を抜粋。

表 7-9 聞き取り対象施設と担当者

施設名	施設概要	聞き取り対象者
交野いきものふれあいの里	交野市北部に位置し、緑豊かな自然の中、野鳥や昆虫などと身近にふれあう場として、平成 4 年に開設された約 25ha の施設。山上の白旗池の池畔にいきものふれあいセンターが設置され、自然保護活動や自然体験学習の拠点として活用されている。	いきものふれあいセンター 一指導員 田中剛史氏
大阪市立大学理学部附属植物園	交野市南部に位置し、約 26ha の敷地に国内外のさまざまな植物を収集、保存している。昭和 25 年に大阪市立大学理工学部附属の研究施設として発足し、植物学の基礎研究の場であるとともに、自然学習や生涯学習の拠点として広く一般にも公開している。	元植物園職員（～2020 年） 篠原健吉氏

① 鳥類確認種

文献調査の結果、18目46科145種の鳥類を確認した。確認種を表7-10に示す。文献別では、文献1で136種、文献2で104種、文献3で105種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥51種、夏鳥21種、冬鳥47種、旅鳥21種、迷鳥2種であった（表7-10、図7-3）。現地調査と同様、留鳥の占める割合が最も高く、35%であった。また、調査時期が繁殖期、越冬期の2回であった現地調査では、時期的に確認されなかった旅鳥が、全体の14%を占めていた。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」（2017年3月31日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。同目録において、旅鳥（一部夏鳥）とされているコサメビタキは、現地調査における出現状況を踏まえて夏鳥とした。また、旅鳥（一部冬鳥）とされているアカハラについては、現地における確認が得られなかったため、旅鳥として扱った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	51種	35%
夏鳥	21種	15%
冬鳥	47種	32%
旅鳥	21種	15%
迷鳥	2種	1%
外来種	3種	2%

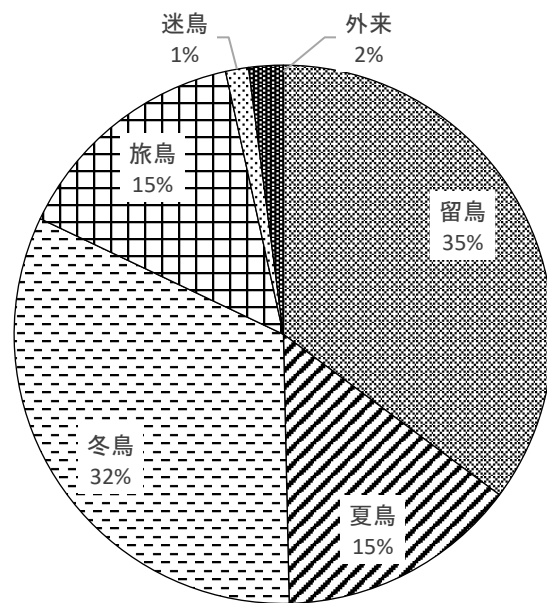


図 7-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-10 文献調査 鳥類確認種 (1/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○	○	○	留鳥
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ	○		○	留鳥
3	カモ	カモ	<i>Cygnus columbianus</i>	コハクチョウ			○	冬鳥
4			<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	○	○	○	冬鳥
5			<i>Anas falcata</i>	ヨシガモ	○	○	○	冬鳥
6			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ	○		○	冬鳥
7			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ	○	○	○	冬鳥
8			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○	○	○	留鳥
9			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ	○	○		冬鳥
10			<i>Anas acuta</i>	オナガガモ	○			冬鳥
11			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ	○			冬鳥
12			<i>Anas crecca</i>	コガモ	○	○	○	冬鳥
13			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ	○	○		冬鳥
14			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ	○			冬鳥
15			<i>Aythya marila</i>	スズガモ	○			冬鳥
16	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○	○	○	留鳥
17	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	留鳥
18			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○	○	○	留鳥
19	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ	○	○		冬鳥
20	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○	○	留鳥
21	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ	○			夏鳥
22			<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ		○	○	留鳥
23			<i>Butorides striata</i>	ササゴイ	○	○	○	夏鳥
24			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○	○	留鳥
25			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○	○	○	留鳥
26			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○	○	○	留鳥
27	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン		○	○	留鳥
28			<i>Fulica atra</i>	オオバン	○	○	○	留鳥
29	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	ジュウイチ	○			旅鳥
30			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○	○	○	夏鳥
31			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○	○	○	夏鳥
32			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○			夏鳥
33	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ	○		○	夏鳥
34	アマツバメ	アマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	ハリオアマツバメ	○			旅鳥
35			<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ	○	○		旅鳥
36			<i>Apus nipalensis</i>	ヒメアマツバメ	○	○	○	留鳥
37	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ		○	○	留鳥
38			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ	○	○		留鳥
39		シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ	○		○	冬鳥
40			<i>Gallinago solitaria</i>	アオシギ	○			冬鳥
41			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ		○	○	留鳥
42		カモメ	<i>Larus ridibundus</i>	ユリカモメ	○			冬鳥
43	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○	○	○	留鳥
44		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○	○	○	夏鳥
45			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○	○	○	留鳥
46			<i>Circus cyaneus</i>	ハイイロチュウヒ	○			冬鳥
47			<i>Accipiter soloensis</i>	アカハラダカ	○			迷鳥
48			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ	○		○	留鳥
49			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○	○	○	冬鳥
50			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○	○	留鳥
51			<i>Buteo indicus</i>	サシバ	○	○	○	夏鳥
52			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	○	○	冬鳥
53	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク	○			冬鳥
54			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ	○			留鳥
55			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク	○			夏鳥
56	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカシヨウビン	○		○	旅鳥
57			<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	○	○	留鳥

表 7-10 文献調査 鳥類確認種(2/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
58	キツツキ	キツツキ	<i>Jynx torquilla</i>	アリスイ	○	○	○	冬鳥
59			<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○			留鳥
60			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○	○	○	冬鳥
61			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○	留鳥
62	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ	○	○	○	留鳥
63			<i>Falco columbarius</i>	コチョウゲンボウ	○	○		冬鳥
64			<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ	○			旅鳥
65			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○			留鳥
66	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ	○	○	○	旅鳥
67		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○		○	夏鳥
68		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○	○	○	夏鳥
69		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	○	○	留鳥
70		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○	留鳥
71			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	○	留鳥
72			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	留鳥
73		クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ	○	○	○	冬鳥
74		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ	○	○	○	留鳥
75			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ			○	留鳥
76			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○	留鳥
77			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	留鳥
78		ツバメ	<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ	○	○	○	旅鳥
79			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○			夏鳥
80			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○	○	○	夏鳥
81			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○	○	○	夏鳥
82		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	留鳥
83		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	留鳥
84			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○	○	○	夏鳥
85		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	留鳥
86		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○	○	○	旅鳥
87			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ	○	○		旅鳥
88			<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ	○	○	○	旅鳥
89			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○	○	○	夏鳥
90		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	留鳥
91		ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ	○	○	○	夏鳥
92		レンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	キレンジャク		○	○	冬鳥
93			<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク	○	○		冬鳥
94		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ		○	○	留鳥
95		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○			留鳥
96		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ	○	○	○	留鳥
97			<i>Agropsar philippensis</i>	コムクドリ	○	○	○	旅鳥
98		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス	○		○	留鳥
99		ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ	○	○		旅鳥
100			<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○			冬鳥
101			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○	○	○	夏鳥
102			<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ	○			旅鳥
103			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○		○	冬鳥
104			<i>Turdus chrysolus</i>	アカハラ	○	○	○	旅鳥
105			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○	○	○	冬鳥
106			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ	○	○	○	旅鳥
107			<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ	○	○	○	旅鳥
108			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ	○			旅鳥
109			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○			冬鳥
110			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	○	○	○	冬鳥
111			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ	○	○	○	旅鳥
112			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○			留鳥
113	<i>Muscicapa griseisticta</i>		エゾビタキ			○	○	旅鳥
114	<i>Muscicapa sibirica</i>		サメビタキ	○	○	○	旅鳥	

表 7-10 文献調査 鳥類確認種(3/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
115	スズメ	ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○	○	○	夏鳥
116			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○	○	○	夏鳥
117			<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ	○	○	○	旅鳥
118			<i>Ficedula albicilla</i>	オジロビタキ	○	○		迷鳥
119			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○			夏鳥
120		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○	○	○	冬鳥
121		スズメ	<i>Passer rutilans</i>	ニューナイスズメ	○	○	○	冬鳥
122			<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	○	○	留鳥
123		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	○	留鳥
124			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	○	○	留鳥
125			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○	○	○	留鳥
126			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	○	○	○	冬鳥
127		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○	○	○	冬鳥
128			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	○	留鳥
129			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○	○	○	冬鳥
130			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ	○	○	○	冬鳥
131			<i>Carpodacus roseus</i>	オオマシコ	○	○	○	冬鳥
132			<i>Loxia curvirostra</i>	イスカ	○			冬鳥
133			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○			冬鳥
134	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		シメ	○	○	○	冬鳥	
135	<i>Eophona migratoria</i>		コイカル	○	○	○	冬鳥	
136	<i>Eophona personata</i>		イカル	○			留鳥	
137	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	○	留鳥	
138		<i>Emberiza pusilla</i>	コホオアカ	○	○	○	冬鳥	
139		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○			冬鳥	
140		<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ	○	○	○	冬鳥	
141		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○	○	○	冬鳥	
142		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○	○	○	冬鳥	
143	(キジ)	(キジ)	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	○	外来
144	(ハト)	(ハト)	<i>Columba livia</i>	ドバト	○	○	○	外来
145	(スズメ)	(チメドリ)	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○	外来
計	18 目	46 科	145 種		136 種	104 種	105 種	

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年,日本鳥学会)に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日,本野鳥の会大阪支部)に従った。

② 鳥類重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は 10 目 20 科 34 種であった。確認された重要種を表 7-11 に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が 3 種、環境省レッドリスト記載種が 15 種、大阪府レッドリスト記載種が 26 種確認された。該当種には陸鳥が多く、タカ目、ハヤブサ目等、猛禽類が多く含まれている。

表 7-11 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL	
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		DD		
2			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ		VU		
3	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ	○	CR		
4	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ		VU	VU	
5	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT	
6	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ		NT	VU	
7	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ		DD	NT	
8			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ			NT	
9		シギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			NT	
10	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		NT		
11		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		NT	CR+EN	
12			<i>Circus cyaneus</i>	ハイイロチュウヒ				NT
13			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ				VU
14			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			NT	
15			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			NT	NT
16			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			VU	CR+EN
17			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ				NT
18	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク			DD	
19			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ				NT
20			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク				VU
21	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco columbarius</i>	コチョウゲンボウ			NT	
22			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○	VU		
23	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ	○	EN		
24		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		VU	VU	
25		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT	
26		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ			DD	
27			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ				NT
28		ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			NT	
29		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ			NT	
30		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT	
31		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ				NT
32			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ				VU
33			ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			
34		<i>Emberiza elegans</i>		ミヤマホオジロ				NT
計		10 目	20 科	34 種		3 種	15 種	26 種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 哺乳類確認種

聞き取り調査の結果、7目12科17種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-12に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。近年、各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカが、生駒でも少ないながら確認され始めているようである。

表 7-12 聞き取り調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	交野市いきものふれあいの里	大阪市大理学部附属植物園
1	トガリネズミ目	モグラ科	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ		○
2			<i>Mogera sp.</i>	モグラ属の一種		○
3	コウモリ目	ヒナコウモリ科	<i>Pipistrellus abramus</i>	アブラコウモリ		○
4	サル目	オナガザル科	<i>Macaca fuscata</i>	ニホンザル		○
5	ウサギ目	ウサギ科	<i>Lepus brachyurus</i>	ノウサギ		○
6	ネズミ目	リス科	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス	○	○
7			<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ		○
8		ネズミ科	<i>Apodemus argenteus</i>	ヒメネズミ		○
9	ネコ目	アライグマ科	<i>Procyon lotor</i>	アライグマ		○
10		イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ	○	○
11			<i>Vulpes vulpes</i>	キツネ	○	○
12		イタチ科	<i>Martes melampus</i>	テン	○	○
13			<i>Mustela itatsi</i>	ニホンイタチ		○
14			<i>Mustela sibirica</i>	タイリクイタチ		○
—				<i>Mustela sp.</i>	イタチ属の一種	○
15	ジャコウネコ科	<i>Paguma larvata</i>	ハクビシン		○	
16	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	○	○
17		シカ科	<i>Cervus nippon</i>	ニホンジカ		○
	7目	12科	17種		6種	17種

④ 哺乳類重要種

聞き取り調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種は2目3科3種であった。確認された重要種を表7-13に示す。

聞き取り調査で確認されたのは大阪府レッドリスト記載種が3種であった。

表 7-13 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	ネズミ目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ			NT
2	ネコ目	イヌ科	<i>Vulpes vulpes</i>	キツネ			CR+EN
3		イタチ科	<i>Mustela itatsi</i>	ニホンイタチ			VU
計	2目	3科	3種		0種	0種	3種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、18目46科145種の鳥類が確認され、そのうち34種が重要種であった（表8-1、表8-2）。
2. 現地調査の結果、11目27科50種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数は繁殖期が20種、越冬期が43種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥50%、夏鳥12%、冬鳥36%と、留鳥の割合が半数を占め、次いで冬鳥の割合が高い結果となった。繁殖が確認された種（Aランク）は1種、繁殖の可能性が高い種（Bランク）は14種であった。

ラインセンサス法及び定点観察で記録された鳥類は、9目25科44種632羽であり、R1で32種331羽、R2で22種178羽、P1で26種123羽であった。山地稜線と農耕地や溜め池などを經由するR1で種数・個体数とも多くなり、ホトトギスやエナガ、ヤブサメなど山地性の種が多かったほか、モズ、ツグミ、カワラヒワといった農耕地を好む鳥が見られた。一方谷筋から市街地に至るR2では、沢筋を好むオオルリがやや多かったほか、ムクドリ、イソヒヨドリといった人家付近に生息する種が特徴的に確認された。白旗池に面したP1ではカモ類やカイツブリなどの水鳥が確認された。周年を通してメジロ、ヒヨドリの生息密度が高く、越冬期にはエナガ、アオジ、ソウシチョウでも高くなった。また、全種を通じて繁殖期より越冬期に鳥類の生息密度は高く、特に標高が低いR2では、越冬期の生息密度の増加が顕著であった。
3. 文献調査の結果、18目46科145種の鳥類が確認され、そのうち34種が重要種であった。これら確認種の渡り区分の内訳は、留鳥35%、夏鳥15%、冬鳥32%、旅鳥15%、迷鳥1%であり、現地調査の結果と同様に、留鳥が一番高く、次いで冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査における重要種は3目4科5種であった。環境省レッドリスト記載種2種、大阪府レッドリスト記載種3種が確認された。また、文献調査における重要種は10目20科34種で種の保存法記載種は3種、環境省レッドリスト記載種は15種、大阪府レッドリスト記載種は26種であった。重要種の内訳では、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類の占める比率が高かった。
5. このように交野鳥獣保護区は、一年中生息する留鳥を主体として、冬期に滞在する冬鳥、次いで夏季に渡来して繁殖する夏鳥が多く生息する、山野の鳥類の生息に適した環境であると考えられた。確認種の中には法律によって保護されるハヤブサを筆頭に、オオタカやフクロウなど、生態系の上位を占める猛禽類が多く含まれ、地域の生態系が充実していることが示唆された。以上より、交野鳥獣保護区は府域の鳥類の生息地として非常に貴重な地域であると言える。
6. 哺乳類については、現地調査ではイノシシ1種しか確認されなかったものの、保護区内の施設関係者への聞き取りで7目12科17種の生息が確認された。中には近年、各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカや、特定外来生物であるアライグマも確認されており、今後の生息状況の推移に関心が持たれる点である。
7. 交野鳥獣保護区には、南部に府民の森くろんど園地、ほしだ園地が営業し、北部の交野市いきものふれあいの里や山麓の大阪市立大学理学部附属植物園とともに、自然とのふれあいの場として多くの利用者を受け入れている。以上のことより、交野鳥獣保護区は、今後も保護区として更新を続け、身近に体感できる優良な野生鳥獣の生息地として、より良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(1/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査
					繁殖期	越冬期	
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○
3	カモ	カモ	<i>Cygnus columbianus</i>	コハクチョウ			○
4			<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		○	○
5			<i>Anas falcata</i>	ヨシガモ		○	○
6			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ			○
7			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ		○	○
8			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○	○	○
9			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ			○
10			<i>Anas acuta</i>	オナガガモ			○
11			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ			○
12			<i>Anas crecca</i>	コガモ		○	○
13			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ		○	○
14			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ		○	○
15			<i>Aythya marila</i>	スズガモ			○
16	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ		○	○
17	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト		○	○
18			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト		○	○
19	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ			○
20	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ		○	○
21	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ			○
22			<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ			○
23			<i>Butorides striata</i>	ササゴイ			○
24			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ		○	○
25			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ			○
26			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ			○
27	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン			○
28			<i>Fulica atra</i>	オオバン		○	○
29	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	ジュウイチ			○
30			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		○
31			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○
32			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ			○
33	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○
34	アマツバメ	アマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	ハリオアマツバメ			○
35			<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ			○
36			<i>Apus nipalensis</i>	ヒメアマツバメ			○
37	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ			○
38			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ			○
39		シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ			○
40			<i>Gallinago solitaria</i>	アオシギ			○
41			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			○
42		カモメ	<i>Larus ridibundus</i>	ユリカモメ			○
43	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○
44		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○
45			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○
46			<i>Circus cyaneus</i>	ハイイロチュウヒ			○
47			<i>Accipiter soloensis</i>	アカハラダカ			○
48			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○
49			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		○	○
50			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○
51			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○
52			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	○

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(2/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査
					繁殖期	越冬期	
53	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク			○
54			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○
55			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○
56	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカショウビン			○
57			<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	○	○
58	キツツキ	キツツキ	<i>Jynx torquilla</i>	アリスイ			○
59			<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○
60			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ			○
61			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○
62	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ			○
63			<i>Falco columbarius</i>	コチョウゲンボウ			○
64			<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ			○
65			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○
66	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ			○
67		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○
68		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ			○
69		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	○
70		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス			○
71			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス			○
72			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○
73		ククイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	ククイタダキ			○
74		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ			○
75			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○
76			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ			○
77			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○
78		ツバメ	<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ			○
79			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		○
80			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○
81			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ			○
82		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○
83		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○
84			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		○
85		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○
86		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ			○
87			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ			○
88			<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ			○
89			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○
90		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○
91		ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			○
92		レンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	キレンジャク			○
93			<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク			○
94		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ			○
95		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ		○	○
96	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ		○	○	
97		<i>Agropsar philippensis</i>	コムクドリ			○	
98	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○	
99	ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ			○	
100		<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ		○	○	
101		<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ			○	
102		<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ			○	
103		<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○	
104		<i>Turdus chrysolus</i>	アカハラ		○	○	

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(3/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査	
					繁殖期	越冬期		
105	スズメ	ヒタキ	<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ			○	
106			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ			○	
107			<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ			○	
108			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ		○	○	
109			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○	
110			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ			○	
111			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ		○	○	
112			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ			○	
113			<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ			○	
114			<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ			○	
115			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		○	○	
116			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ			○	
117			<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ			○	
118			<i>Ficedula albicilla</i>	オジロビタキ		○	○	
119			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ			○	
120			イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ			○
121			スズメ	<i>Passer rutilans</i>	ニューナイスズメ	○	○	○
122				<i>Passer montanus</i>	スズメ		○	○
123			セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ			○
124	<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ			○	○		
125	<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ			○	○		
126	<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ			○	○		
127	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○		○		
128		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ			○		
129		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ			○		
130		<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ			○		
131		<i>Carpodacus roseus</i>	オオマシコ			○		
132		<i>Loxia curvirostra</i>	イスカ			○		
133		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ			○		
134		<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ			○		
135		<i>Eophona migratoria</i>	コイカル		○	○		
136		<i>Eophona personata</i>	イカル			○		
137		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ			○	
138	<i>Emberiza pusilla</i>		コホオアカ			○		
139	<i>Emberiza rustica</i>		カシラダカ			○		
140	<i>Emberiza elegans</i>		ミヤマホオジロ		○	○		
141	<i>Emberiza spodocephala</i>		アオジ		○	○		
142	<i>Emberiza variabilis</i>		クロジ			○		
143	(キジ)	(キジ)	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ			○	
144	(ハト)	(ハト)	<i>Columba livia</i>	カワラバト(ドバト)	○	○	○	
145	(スズメ)	(チメドリ)	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ		○	○	
計	18目	46科	145種		20種	43種	145種	

表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL	
					繁殖	越冬					
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		○	○		DD		
2			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ			○		VU		
3	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ			○	○	CR		
4	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ			○		VU	VU	
5	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○			NT	
6	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○		NT	VU	
7	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ			○		DD	NT	
8			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ			○			NT	
9		シギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			○			NT	
10	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○		NT		
11		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○		NT	CR+EN	
12			<i>Circus cyaneus</i>	ハイイロチュウヒ			○			NT	
13			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○			VU	
14			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		○	○		NT		
15			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○		NT	NT	
16			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○		VU	CR+EN	
17			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	○			NT
18	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク			○			DD	
19			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○			NT	
20			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○			VU	
21	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco columbarius</i>	コチョウゲンボウ			○			NT	
22			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○	○	VU		
23	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ			○	○	EN		
24		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○		VU	VU	
25		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○			NT	
26		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ			○		DD		
27			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○			NT	
28		ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			○			NT	
29		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ			○			NT	
30		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○			NT	
31		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○	○		NT	
32			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			○	○		VU	
33		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			○			NT	
34			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			○			NT	
計		10 目	20 科	34 種		1 種	4 種	34 種	2 種	15 種	26 種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

9. 参考文献

- 「環境省レッドリスト 2020」（2020 年, 環境省）
- 「大阪府レッドリスト 2014」（2014 年, 大阪府）
- 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」（2019 年 1 月, 環境省報道発表資料）
- 「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年, 日本野鳥の会大阪支部）
- 「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年, 日本鳥学会）
- 「交野鳥獣保護区指定調査報告書」（大阪府, 2011 年）
- 「交野市史 自然編Ⅰ」（交野市, 1986 年 11 月）
- 「交野市史 自然編Ⅱ」（交野市, 1986 年 11 月）
- 「40 周年記念版 交野の野鳥」（交野野鳥の会（電子データ））

10. 「生駒山－歴史・文化・自然にふれる」(大阪府みどり公社編, 2010年5月)
11. 「『大阪府民の森』各園地等の現状について」(大阪府, 2019年8月)
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/217/00329312/setsumeishiryou.pdf>